

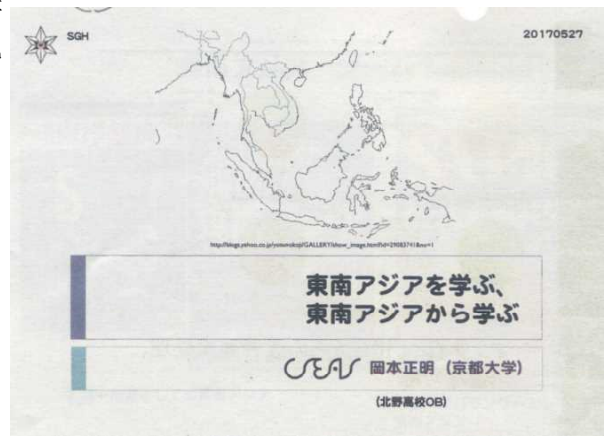
京都大学東南アジア研究研究所 岡本正明教授による講演 「東南アジアを学ぶ、東南アジアから学ぶ」

北野高校 SGH の取り組みが発足した時以来、課題研究などの探究活動に対してご指導をいただいている岡本正明先生（本校卒業生）による講演が、5月27日・土曜日の10時より行われました。今年は京都大学本部キャンパス・総合研究二号棟4階の大会議室で開催され、課題研究でSGH関連講座を選択している文系・理系の生徒計59名が参加しました。

「東南アジアを学ぶ、東南アジアから学ぶ」と題した講演の内容は、東南アジアの経済成長や政治体制の現況、東南アジアの人々が持つ日本への関心の高さと親密さ、中国との関係など多岐にわたるものでした。さらに、宗教や性の多様性とそれに対する不寛容の表れなどの問題も提起されました。聴講した生徒たちからは、例えば政治体制に関連して、民主化が中程度の段階にある国は今後どちらの方向に向かうのか？マスメディアに対する政府の統制はあるのか？など、鋭い質問が出されました。

講演が終わった後は研究所所属の大学院生や留学生とともに西部構内の食堂に移動し、一緒に昼食をとりました。この日はイスラム圏では断食月（ラマダン月）が始まったところであり、マレーシアやインドネシアからのムスリムである留学生は昼食に参加することができません。北野高校生の人数に対して大学院生・留学生の人数が少なかったのは少し残念でした。

今回お世話になりました岡本先生と大学院生、留学生のみなさまにあらためてお礼申し上げます。



<岡本正明先生の
講演レジュメより>